

タイトル： 早稲田ラグビーファン「族」について

Title： About 「Zoku」 Waseda Rugby Fan

1 K08A095-4 小林勇也

主査 リー・トンプソン

副査 倉石平

・第1章 はじめに

第1節では、まず本研究を始めるにあたって、どういった事が動機になっているのかについて触れている。

私自身が早稲田大学ラグビー蹴球部に所属し活動してきた中で、早稲田ラグビーファンには特異的なサポーター活動をする人々が存在している事に気付いた。ラグビー部が活動している上井草グラウンドに、雨の日も風の日も足しげく通い、練習を見守る人々＝通称「族」と呼ばれる一部のファンである。こういった人々はどういった目的があり、それほどまで熱心にサポーター活動をしているのかという疑問を持ったのが本研究をスタートした動機である。

第2章では、本研究の研究対象である「族」というものの、研究開始段階で分かっていた特徴を記述し、「族」に対する簡易的な定義付けを行った。

・第2章 先行研究

第1節では、本研究を進めていくうえでラグビーという競技について触れている。やはりマイナー競技という事もあり、ルールや歴史的背景というものの認知度が低いと考えたからである。こういったラグビーに関する知識は後述する早稲田ラグビー部の戦術などを理解するために必要不可欠であると考え、第1節で触れた。

第2節では、早稲田大学ラグビー蹴球部に関して記述してある。90年以上にも渡る早稲田ラグビーの歩みというものを、創部の段階から現在に至るまで記述した。本研究を進めていく中で、早稲田ラグビー部の時代背景などは「族」を分析していく中で非常に重要な要素であると考え、重点的に文献を調査した。

第3節では早稲田ラグビー部の伝統的な文化について触れている。他大学には見られない早稲田ラグビー部独特の文化も数多く見つかり、第2節と併せて「族」の研究には欠かせない要素であると考えられるものとなった。

第4節ではスポーツファンに関する先行研究の結果について触れている。「族」というものは一種の熱狂的なファンであることから、他のスポーツで見られる特異的なサポーター活動に関するものなどにも触れている。

・第3章 研究の進め方

第1節では、本研究の中で頻出する単語である、「ファン」、

「サポーター」、「フーリガン」、「族」に関する定義付けをしている。

第2節では、本研究を進めていく中で私自身が考えた仮説に関して記述している。具体的には、「族」のサポーター活動の要因となっているものが何なのかに関して触れている。

第3節では、本研究の研究方法に関して記述している。本研究ではアンケート調査を行ったので、どういった手続きを踏んで行ったのか、またそれによって得られたデータの整理の際に使用した、コーディングシートに関しても触れている。また調査の際に実際に使用したアンケート用紙も載せてある。

・第4章 結果と考察

ここでは本研究で実施したアンケート調査によって集めたデータを割合が分かりやすいようにするために、円グラフにしてまとめた。質問1～9まで、「族」に対して行ったアンケートと一般のファンに行ったものの双方に関して、円グラフにし、結果に関する考察を付け加えた。その結果「族」に関してのより明確な定義付けが可能になったのと同時に、「族」の熱心なサポーター活動の裏側に潜む心理的要因に関しても知ることができた。

・第5章 まとめ

ここでは本研究のまとめとして、私自身が立てて仮説と、実際にアンケート調査、文献調査の結果を比べる事によって明らかになった事に関して触れている。具体的には、「族」という早稲田ラグビーファンの特異的な存在である人々のサポーター行動の要因が一体どういった事であったのかという部分に関して重点的に記述してある。

・第6章 参考文献

ここでは本研究を進めていく中で、文献調査に使用した資料などに関して紹介している。